

る過程で、生き残れる菌だけが残っているんです。

ですから、一日と三年では乳酸菌が出す成分がまったく違いますので、かなり濃縮されています。

—— KHVに対してはどうでしょう。

田中 それは筑波大学の星野教授がKHVには乳酸菌が効果があるという結果を発表しています。

池田 それと同じ属の物を使っています。KHVが発症したある業者さんから相談を受けまして、すぐに使っておられますので、いまでは何らかの結果が出ているはずですが、効果は期待できません。

—— 適正な倍率はいくらでしょう。

池田 水槽だったら水量がわかりますよね。基本の使用倍率は五千倍ですが、コツとして水を管理するならば最初は三千倍で使用すれば、菌が定着しますから、二回目からは五千倍で十分です。飼料も同倍率で効果があります。

絵原 まだ実験段階ですが二倍、五倍、十倍の液を作り、一日置いて乳酸菌を増やして、それを餌に混ぜてやる方法と、初めから百倍に薄めて餌に混ぜて一日置くのと、どちらが効果

3月14日



3月15日



3月16日



3月18日



平成17年3月14日

- ・餌（乳酸菌含有）を与える
- ・水質＝pH7.2 水温＝20℃（AM10:30）
- ・水槽少し濁る

平成17年3月15日

- ・餌（乳酸菌含有）を与える
- ・水質＝pH7.2 水温＝21.5℃（AM10:30）
- ・水槽少し濁る
- ・濾過槽を掃除する…ヘドロの周りに透明の膜を張ったような状態が見られた。匂いあまりしない。

平成17年3月16日

- ・餌（乳酸菌含有）を与える
- ・水質＝pH7.3 水温＝21℃（AM10:30）
- ・患部の状態が目に見えて回復してきている

平成17年3月18日

- ・餌（乳酸菌含有）を与える
- ・水質＝pH7.2 水温＝21.3℃（AM11:30）

本日で実験終了。

患部の状態ほぼ完治
鯉の状態は非常に良い

乳酸菌の期待できる効果とは

- 一、鯉の消化吸収が促進され、下痢・軟便がなくなる。乳酸菌のつくる乳酸が腸を適度に刺激して腸の運動を高めるため。
 - 二、大腸菌その他の病原菌を抑制し、罹病率が著しく低下する。乳酸菌のつくる乳酸が有害菌が増えるのを防ぐため。
 - 三、病気に強い鯉になる。乳酸菌が腸の免疫機能を活性化させ、体の抵抗力を強めるため。
 - 四、アンモニアなどの有害物質の排出量が減少し、水質の安定や改善につながる。乳酸菌により腸内の有害菌が抑えられると、アンモニアなどの腸内の腐敗産物が減少するため。
 - 五、水槽の汚れが減少し、雑菌繁殖が減少する。乳酸菌により腸内の有害菌が抑えられ、微生物に分解されやすい糞になるため。
- 以上のことにより、鯉の健康促進効果、水質向上効果が予想されます。それによって、鯉の成長促進、品質向上が予想されます。

乳酸菌
(ミラクル・アニマル)
実験 1

当歳の潰瘍？ (4匹)

【当歳データ】

鯉 1	三色	体長 20 cm
鯉 2	三色	体長 15 cm
鯉 3	紅白	体長 15 cm
鯉 4	紅白	体長 15 cm

3月12日

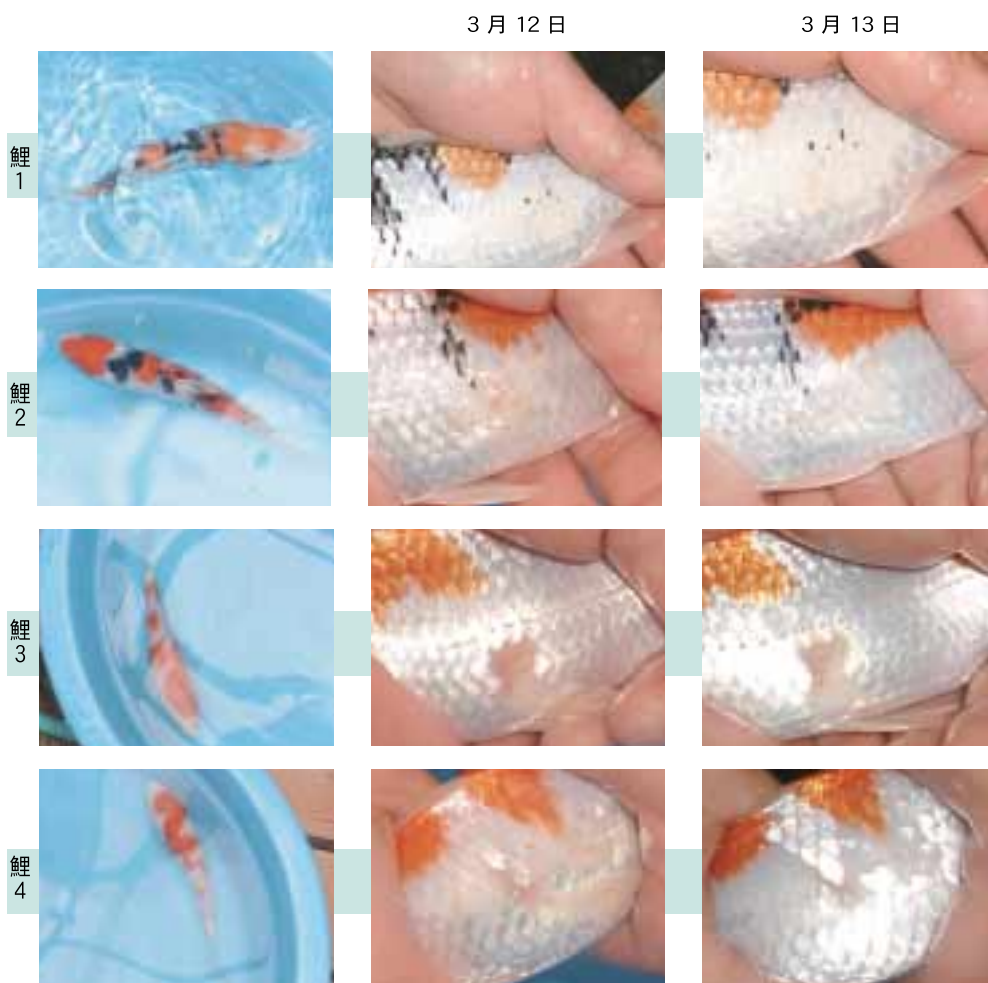
30 ccの乳酸菌を水槽へ注水

餌 (乳酸菌含有) は
3月13日より実施

水温…20℃

水量…150 ℓ (90 cm水槽)

資料提供・絵原養魚場



平成17年3月12日
・5000倍に薄めた乳酸菌
を入れる。(30 cc)

平成17年3月13日
・餌 (乳酸菌含有) を与える
・水質 = pH7.5 水温 =
20.7℃ (AM10:00)

